

## 情報は自分で確かめよう。

弘前大学教育学部附属小学校

成田 歩 生

みなさんは、もし無人島に漂流したらどうしますか？ぼくは、すぐ帰れるようにいかだを造ります。しかし、この本の登場人物は何をするのか気になってこの本を選びました。

この本は、八歳から十四歳の十五人の少年たちが主人公の物語です。少年たちしか乗っていない船が沖に流されてしまい、チエアマン島という無人島に漂流します。そして、故郷に無事帰るために、様々な試練に立ち向かいます。

ぼくがこの本を読んで一番心に残ったところは、ジャックが自分のいたずらのせいで船が流されてしまったとみんなに伝えた時に、誰も責めることなく受け入れていたところです。ぼくはその場面を読んで、とてもびっくりしました。なぜなら、もしぼくがジャックの話の聞いていた立場だったらと考えると、言葉には出さなくとも、心の中ではどうい受け入れられないだろうと思うからです。自分たちがチエアマン島に漂流してたくさんの苦勞をした原因が、まさか友達のいたずらだったと考えると、とても腹が立つと思います。しかし、

みんなにとでも申し訳ないと思っていたジャックは、危険な仕事を自ら受け入れていました。その様子を見て、ぼくはジャックの悪いところだけを見て判断してはいけないと気づきました。

例えば、友達が大きな失敗をしてしまったとします。その情報だけを聞くと、ミスをしてしまった理由や、友達は今どういう気持ちなのか分かりません。それなのに、一方的におこつてしまい、聞いた情報を確かめずにその友達をさけてしまう人がいます。本当のことが分からないのに、さけることは良くないことだと思います。

ぼくはこの本から、不確かな情報で物事を決めつけるのではなく、実際に自分で確かめることの大切さを学びました。これからは、自分で情報を確かめ、周りに流されたり、まどわされたりしない人間になりたいです。そのことが出来たら、大きな失敗をした友達でも許せるようになり、よりそってあげられるなと思いました。